

氏名	高崎 博司	部署	理学療法学科	職名	准教授
研究分野	運動器理学療法				
学位	博士（理学療法学）				
学歴	2004年札幌医科大学理学療法学科、6年札幌医科大学大学院修士課程保健医療学研究科徒手療法学				
経歴	2013年クイーンズランド大学博士研究員、14年埼玉県立大学理学療法学科講師、17年埼玉県立大学理学療法学科准教授				
所属学会（役職）	日本理学療法士協会、日本整形外科スポーツ医学会、日本徒手理学療法学会（理事）、埼玉アスレチックリハビリテーション研究会（理事）、専門リハビリテーション研究会				

【2021年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月	
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Lumbar Spine Instability Questionnaireの日本語異文化適応	共著	あり		徒手理学療法; 21(1); P.3-8	松永綾華, 三木貴弘, 近藤湧, 高崎博司	2021.4
2	Stratified Care Models	単著	あり		徒手理学療法; 21(1); P.9-13	高崎博司	2021.4
3	Lumbar Roll Usage While Sitting Reduces the Forward Head Posture in Healthy Individuals: A Systematic Review with Meta-Analysis	共著	あり	○	J Environ Res Public Health; 18(10); P.5171	Yusuke Handa, Kenya Okada, Hiroshi Takasaki	2021.4
4	Spinal Movement Variability Associated with Low Back Pain: A Scoping Review	共著	あり	○	PLoS One; 16(5); P.e0252141	Hiroki Saito, Yoshiteru Watanabe, Toshiki Kutsuna, Toshihiro Futohashi, Yasuaki Kusumoto, Hiroki Chiba, Masayoshi Kubo, Hiroshi	2021.5
5	Comparisons of hamstring flexibility between individuals with and without low back pain: systematic review with meta-analysis	共著	あり	○	Physiother Theory Pract; 37(5); P.559-582	Masataka Hori, Hiroyuki Hasegawa, Hiroshi Takasaki	2021.5
6	Investigation on the effectiveness of abdominal hollowing home-exercises using a portable ultrasound: Randomized controlled trial	共著	あり	○	J Electromyogr Kinesiol; 58; P102532	Hiroshi Takasaki, Shota kawazoe	2021.6
7	生物心理社会モデルに基づく非特異的腰痛に対する理学療法の進化	共著	あり		Journal of Spine Research; 12(6); P.825-830	三木貴弘, 高崎博司, 寒川美奈, 竹林庸雄	2021.6
8	Development and validity assessment of a Japanese version of the Exercise Adherence Rating Scale in participants with musculoskeletal disorders	共著	あり	○	Health Qual Life Outcomes; 19(1); P.169	Hiroshi Takasaki, Shota Kawazoe, Takahiro Miki, Hiroki Chiba, Emma Godfrey	2021.6
9	Cross-cultural adaptation of the Health Sciences Evidence-Based Practice into Japanese and test-retest reliability in undergraduate students	共著	あり		Prog Rehabil Med; 6; P.20210034	Hiroshi Takasaki, Kazuki Kikkawa, Hiroki Chiba, Yusuke Handa, Albert Sesé-abad, Juan Carlos Fernández-domínguez	2021.8
10	Determination of the conceptual structures of the disturbed activities of daily living due to Katakori by evaluating patients' values or perceptions using a patient-elicitation technique	共著	あり		J Phys Ther Sci; 33(9); P.683-688	Kouhei Natsume, Yusuke Handa, Hiroshi Takasaki	2021.9

11	Rasch Analysis of Self-Reported Adherence to Patient-Centered Physical Therapy Scale among Japanese Physical Therapists: Cross-Sectional Study	単著	あり	○	Int J Environ Res Public Health; 18; P.10282	Hiroshi Takasaki	2021.9
12	Pain neurophysiology knowledge enhances attitudes toward biopsychosocial managements of low back pain among Japanese physical therapists	共著	あり		Prog Rehabil Med;6 ; P.20210039	Yuri Mikamo, Hiroshi Takasaki	2021.10
13	患者の自律性を高める理学療法士のコミュニケーション能力を評価する Communication Evaluation in Rehabilitation Toolの検者間信頼性検討	共著	あり		徒手理学療法; 21(2); P.37-44	立川恵梨子, 半田裕介, 千葉弘樹, 三木貴弘, 近藤湧, 浜本龍樹, 高嶋博司	2021.11
14	Initial development of a patient-reported outcome measure of disability due to Katakori via evaluating patient comprehensibility and comprehensiveness	共著	あり		J Phys Ther Sci; 34(1); P.13-17	Hiroshi Takasaki, Yusuke Handa	2022.1

(3) 学会発表

	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	慢性外傷性頸部症候群患者に対する認知行動療法の有効性：システムティックレビューおよびメタ分析	共同	第72回 北海道理学療法士学会学術大会、函館市	○近藤湧, 三木貴弘, 倉形裕史, 高嶋博司, 竹林庸雄	2021.5
2	マッケンジー法における研究優先課題の特定 - デルファイ変法	共同	第20回専門リハビリテーション研究会学術大会、埼玉	○千葉弘樹, 半田裕介, 吉川和希, 井上和久, 高嶋博司	2021.7
3	Scores of the Communication Evaluation in Rehabilitation Tool could be dependent on physical therapists: A pilot study & secondary analysis	共同	第20回専門リハビリテーション研究会学術大会、埼玉	○半田裕介, 立川恵梨子, 千葉弘樹, 近藤湧, 浜本龍樹, 高嶋博司	2021.7
4	Knowledge and Attitudes of Painの日本語への異文化適応と学部学生におけるテスト再テスト信頼性の検証	共同	第27回日本徒手理学療法学会学術大会、札幌	○田沼太郎, 高嶋博司	2022.3
5	Patient Specific Functional Scale 2.0 の日本語版作成	共同	第27回日本徒手理学療法学会学術大会、札幌	○石ヶ谷侑紀, 吉川和希, 半田裕介, 千葉弘樹, 三木貴弘, 近藤湧, 高嶋博司	2022.3
6	痛みの神経生理学的知識はBPSの態度を高める	共同	第27回日本徒手理学療法学会学術大会、札幌	○三鴨由梨, 高嶋博司	2022.3
7	Rasch 解析を用いた運動器疾患患者に対する日本語版Health Locus of Control 尺度の構造的妥当性検証	共同	第27回日本徒手理学療法学会学術大会、札幌	○根本清香, 三木貴弘, 近藤湧, 高嶋博司	2022.3

(4) その他

	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし				

2. 競争的資金等の研究				
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究）	腰痛による労働者の出勤状況と医療費支出に影響する二次予防戦略を含む因子の特定	研究代表者	2019.4～2022.3
2	埼玉県立大学・奨励研究	頸部症状に対するDirectional Preferenceに沿った運動療法の効果：無作為臨床試験	研究代表者	2021.4～2022.3

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	運動器障害治療学特論(大学院)	○	15	運動器理学療法マネジメントに関する最新知見を紹介した
2	理学療法研究法		2.5	研究倫理申請書の書き方を指導した
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	臨床推論演習	○	8	クリニカルリーズニングについて講義・演習を行った
2	徒手理学療法学	○	8	徒手療法テクニックの演習を行った
3	臨床推論実習	○	30	Evidence-Based Practiceとクリニカルリーズニングについて講義・演習を行った
4	理学療法応用技術学F(特殊テクニック)	○	8	Pain neuroscience educationや特殊なテーピング、運動療法、徒手技術の指導をした
5	理学療法セミナー(OSCE1)		8	OSCEに向けた演習と試験を行った
6	理学療法セミナー(OSCE2)		8	OSCEに向けた演習と試験を行った
7	リハビリテーション学演習(運動器障害治療学)(大学院)	○	30	運動器理学療法マネジメントの方法を演習した
8	IPWシステム開発論2(大学院)		2	質問紙の開発方法を指導した
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習:期間 学内実習:コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	IPW実習		2021.4~2021.10	オンラインで課題のファシリテーターをした
2	臨床教育実習I		2021.2~2021.3	学生評価と実習後の振り返りを行った
3	臨床教育実習II		2021.9~2021.10	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った
4	臨床教育実習III		2021.4~2021.6	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った
5	臨床教育実習IV		2021.7~2021.8	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2021.4~2022.3	主指導 11名	副指導 名
2	修士論文	2021.4~2022.3	主指導(指導教員) 3名	副指導(指導補助教員) 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)	
1	東京工科大学 非常勤講師	2021.12	自主性を高める声掛けの方法とマッケンジー法の概要を解説した	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	国際スポーツ競技対策委員会 第1回研修会	埼玉県理学療法士会	臨床上での英語でのコミュニケーションスキル(基礎・復習編と応用・実践編)	2021.6
2	第20回専門リハビリテーション研究会 新人向け講習会	専門リハビリテーション研究会第20回 学術大会準備委員長	ガイドラインの作成過程・Evidence Based Practiceとは?	2021.7
3	臨床実習受け入れ施設対象講習会	埼玉県立大学	マッケンジー法(Mechanical Diagnosis and Therapy)のイントロダクション	2021.9
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	埼玉県理学療法士会	国際スポーツ競技対策委員		2016.10~現在
2	The McKenzie Institute International	MII Research Advisory Committee		2017.1~現在
3	日本徒手理学療法学会	理事		2017.4~現在
4	埼玉アスレチックリハビリテーション研究会	理事		2017.4~現在
5	日本理学療法士協会	頸部痛理学療法診療ガイドライン作成委員		2017.6~2022.3
6	日本理学療法士協会	ガイドライン・用語策定委員会 アドバイザー		2018.3~2022.3
7	日本徒手理学療法学会	徒手理学療法雑誌編集委員		2018.4~現在
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			

(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	専門リハビリテーション研究会	専門リハビリテーション研究会第20回学術大会準備委員長	2019.4～2021.7
2	地域貢献活動	オリンピック組織委員会	Tokyo 2020のボート競技医務室ボランティア	2021.7～2021.8
3	国際協力事業	Musculoskeletal Science and Practice	論文の査読	2019.4～現在
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	国際交流委員		2021.3～2022.3
2	学生支援	21期 学年担任		2021.3～2022.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
	該当なし			